



●スクールバスの路線決定

4路線に決定し、下記の運行コースにより、実際に乗車する生徒数に応じた大きさのバスを配車することに決定いたしました。

- 1号車 東中組 → 野方支所 → 荒佐神社付近 → 横内 → 持留小 → 下持留 → 中学校
- 2号車 重田自動車付近 → 佐土原 → 釜ヶ宇都 → 持留小 → 下持留 → 中学校
- 3号車 旧立小野小前 → 海道原付近 → 黒石 → 西持留 → 下原 → 中学校
- 4号車 中沖公民館前 → 菱田中学校 → 中学校

※持留小⇒下持留については、乗車人数によりいずれかのバスが停車します。  
 ※バス停については、現地調査後、変更になることもあります。



●自転車通学補助金決定

菱田中学校区及び大崎第一中学校区に在住する生徒の保護者のうち、次のいずれかに該当する保護者には、通学補助金を助成することが決定いたしました。

- ①大崎中学校まで自転車通学を選択した生徒の保護者
  - ②統合前年度に既に自転車通学をしていて、引き続き自転車通学をする生徒の保護者（2・3年生）
- ※補助金助成は1人1回限りとし、助成年度は26年度・27年度とします。

まよひの窓おしえの庭 NO.14 啐啄同機

大崎小学校 校長 川元 敏裕

上の言葉は、大崎小学校の校長室に飾られている言葉です。書の裏書きには『啐啄同機なれど 従前のとおり掲げるものとする 平成8年8月1日』とありますので、現在の校舎が新築されるときに、古くなった書と同じ言葉を新たに書き直して掲げられたものと考えられます。

意味を調べてみると、これは禅宗の言葉のようです。

『啐：そつ』・・・卵からヒナがかえるとき、ヒナが内側から卵の殻をコツコツつつき、親鳥にシグナルを発信している様子。

『啄：たく』・・・親鳥が外側から卵の殻をつついていく様子。

ヒナが卵から出てくる時の『啐』と親鳥の『啄』のタイミングは見事に対応しており、そのことを『同機』と言うのだそうです。

親鳥とヒナに限らず、親と子ども、教師と子どもの関係においても『同機』は大切なことです。子どもが「なぜだろう、分かってほしい」「できるようにになりたい」「将来の自分はこうになりたい。」など、「自分を前に進めたい。向上したい。」と疑問や意欲が高まった時に、親や教師がタイミング良く支援や指導をすることが、卵の殻を割って成長することにつながるのだと思います。子どもが、せっかくなシグナルを出しているのに大人が気づかず成長の機会を逃したり、子どもはまだシグナルを出していないのに、大人が先走ったりしては『同機』とは言えません。

子どもは、その成長の過程で、知的にも身体的にも最も成長しやすく、身につけやすい時期があります。個人差はありますが、そのタイミングを親や教師はしっかりと見取ってやり、確かな成長を促したいものです。



蛍光タスキは、必需品！



歩行者も明るい服を着たり、  
蛍光タスキなど使いましょー。

